ＮＰＯ実践学Ⅲ

自然とのつきあい

日時：平成１９年１２月８日（土）　１３：００～１５：００
講師：長谷川　明子（ビオトープを考える会　会長）

概況

実際にプログラムを体験するなど、実践中心で講義は行われました。

■前半
まず、五感を使って心で見るトレーニングとして、「10の言葉」と「背中の私はだれ？」という自己紹介ゲームを行いました。「10の言葉」ではまず、頭に浮かんだ言葉（テーマ）を別の間接的な10の言葉で表し、それをカードに記します。次に、そのカードを使って一対一の自己紹介をします。自己紹介では互いにカードを見せあい、相手のテーマを当て合います。2通りの自己紹介ゲームを通して、参加者同士が自己紹介をする方法の一部を学んだほか、私たちが五感のうち視覚に多くを頼っていることに気づきました（10の言葉では、視覚に関連する言葉が多かった）。
次に、「くっ付き虫ボード」を作りました。これは、段ボールをロウ紙（コピー用紙の包装紙）で包み、片面に両面テープを貼ったもの。これを使うことで、野外で拾ったものを両面テープの粘着面に貼ることで、採取物を簡単に持参できます。そのため、10歩ごとに落ちているものを集める、など遊びながら定量的な調査することができます。
その後、リーダーとして参加者を野外に連れ出す時の注意点やアドバイスについて説明されました。持参すると良いものとして、90%エタノールが挙げられました。これは消毒薬となるだけでなく、昆虫を標本用に持ち帰るときに保存液としても使うことができます。

■後半
講義の後半は、くっ付き虫ボードを持って海上の森に出向きました。歩く際に幾つか課題が与えられました。
（1）丸いものと三角のものを、星型のものを探し集める（集めたものはくっ付き虫ボードに貼り付ける）：皆、熱心に道に落ちているものや歩道脇に生えている植物を観察していました。
（2）合図があるまで目を閉じる：後で、目を閉じていたときや、開けた瞬間の印象を生徒に問いかけました。五感の一つが欠けると、他の感覚が研ぎ澄まされることに気づきました。
センターに戻ってから、屋外で「運命の赤い糸」というプログラムを行いました。赤い毛糸で生徒の指を結び（生物同士の関係を表す）、1人が欠けたらどうなるか、などを体験しました。このプログラムでは生物の絶滅などを考えさせるものでした。

最後に、資料を使って、講義で行ったプログラムの狙いや意味などをふりかえりました。